

## 第 115 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
未収金	前払金	仮払金	備品
貸付金	支払手形	買掛金	未払金
前受金	仮受金	備品減価償却累計額	資本金
売上	受取手数料	固定資産売却益	仕入
旅費交通費	固定資産売却損	支払手数料	雑益
雑損	現金過不足		

1. 現金の実際有高が帳簿残高より多かったため、現金過不足勘定で処理されていた 10,000 円のうち、6,000 円は受取手数料の記入漏れであることが決算日にいたり判明した。残額については不明のため、適当な科目に振り替えることにした。
2. 商品 96,000 円を掛けで売り渡した取引を、借方・貸方とも誤って 69,000 円と記入されていたので、正しい金額に修正した。
3. 商品 200,000 円を仕入れ、代金のうち 150,000 円はすでに支払ってある手付金で充当し、残額は掛けとした。
4. 不要となった備品（取得原価 300,000 円、減価償却累計額 100,000 円、間接法で記帳）を期首に処分し、売却代金 50,000 円は後日受け取ることにした。
5. 従業員の出張に際し、旅費の概算額 100,000 円を現金で手渡した。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金過不足	10,000	受取手数料 雑益	6,000 4,000
2	売掛金	27,000	売上	27,000
3	仕入	200,000	前払金 買掛金	150,000 50,000
4	備品減価償却累計額 未収金 固定資産売却損	100,000 50,000 150,000	備品	300,000
5	仮払金	100,000	現金	100,000

・解説

- 現金過不足に関する問題です。現金過不足勘定を雑益または雑損に振り替える仕訳は、日商簿記検定 3 級では頻出の論点ですので、必ず出来るようにしておいてください。

本問はまず、問題文の「現金の実際有高が帳簿残高より多かったため、現金過不足勘定で処理されていた 10,000 円」という仕訳を考えると分かりやすいです。期中に現金の過不足が判明した場合（帳簿残高≠実際有高）、とりあえず現金過不足勘定で一時的に処理しておいて、理由が判明したものについてはその勘定科目に振り替え、最終的に原因が特定できなかったものについては決算整理仕訳で雑益または雑損に振り替えます。

では仮に、実際有高を 110,000 円・帳簿残高を 100,000 円とします。この場合は帳簿残高を実際有高に合わせるために以下のような仕訳を切ることになります。

☆既に切られている仕訳

(借) 現金 10,000 / (貸) 現金過不足 10,000

このうち、「6,000 円は受取手数料の記入漏れであることが決算日にいたり判明した」と問題文にありますから、6000 円に関しては現金過不足勘定を受取手数料勘定へ振り替えることになります。

(借) 現金過不足 6,000 / (貸) 受取手数料 6,000

残額の 4,000 円については問題文に「**残額については不明**」とありますから、現金過不足勘定を雑益勘定へ振り替えることになります。

(借) 現金過不足 4,000 / (貸) 雑益 4,000

現金過不足に関する問題を解く際のポイントは、「**現金過不足勘定を計上したときの仕訳をイメージすること**」と「**最終的には現金過不足勘定の残高をゼロにする（現金過不足勘定は翌期に持ち越さない）**」という点です。現金過不足の問題に苦手意識のある方は、上記の 2 点を意識して問題を解くようにしてください。

なお、現金過不足に関する問題は、第 110 回の間 4 や 第 111 回の間 4、第 117 回の間 1、第 123 回の間 2 でも出題されていますから、併せて確認するようにしてください。

2. 誤記入に関する問題です。このような問題は【間違って切ってしまった仕訳】→【正しい仕訳】→【①を②に訂正する仕訳】という順番で考えていきましょう。本問では以下ようになります。

☆間違って切ってしまった仕訳・・・①

(借) 売掛金 69,000 / (貸) 売上 69,000

☆正しい仕訳・・・②

(借) 売掛金 96,000 / (貸) 売上 96,000

★①を②に訂正する仕訳→解答

(借) 売掛金 27,000 / (貸) 売上 27,000

このように分けて考えるととても簡単な問題ということがお分かりいただけるとと思います。いきなり解こうとすると貸借を逆に書いてしまったりするので、上記のように分けて考える癖を練習段階から意識して行うようにしてください。

3. 仕入取引に関する問題です。この問題は【前払金に関する仕訳】【買掛金に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

### ・前払金に関する仕訳

問題文に「代金のうち 150,000 円はすでに支払ってある手付金で充当し」とありますので、既に切られた仕訳を考えた上で解答を導き出すと分かりやすいです。

☆既に切られた仕訳

(借) 前払金 150,000 / (貸) 現金など 150,000

★解答①

(借) 仕入 150,000 / (貸) 前払金 150,000

ここで注意していただきたいのは、前払金勘定と仮払金勘定の違いについてです。前払金というのは、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払った場合に計上する勘定**で、一方、仮払金というのは、**なんのためのお金が決まっていないが、とりあえず先に支払った場合に計上する勘定**です。

本問の場合は、問題文に「代金のうち 150,000 円はすでに支払ってある手付金で充当し」とあり、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払っていますから、前払金勘定を使って処理**していたと判断することが出来ます。

#### ・買掛金に関する仕訳

問題文に「残額は掛けとした」とありますので、これに関しては掛けによる通常の仕入を認識するだけです。

★解答②

(借) 仕入 50,000 / (貸) 買掛金 50,000

上記の①②の仕訳をまとめると解答の仕訳になりますが、本問はとても簡単な問題ですので取りこぼしの無いようにしてください。

4. 固定資産の売却に関する問題です。固定資産の売却損益は、**売却時の帳簿価額と売却価額の差額**により算定します。

本問の場合、売却直前の帳簿価額は【取得原価 300,000 円－減価償却累計額 100,000 円＝200,000 円】となりますので、これと売却価額 50,000 円とを比較して、売却損の 150,000 円を計上することになります。

